

<b>1 学校教育目標</b> やる気いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 輝く 山内西の子	<b>2 本年度の重点目標</b> ① 基礎基本の定着と学力向上 ・個に応じた指導(個別指導・習熟度別指導) ② 返事・あいさつ・礼儀正しい態度や言葉遣い
---	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む。

**3 目標・評価**

**① 基礎基本の定着と学力向上**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○ 学力の向上	・学習状況調査、市漢字、計算検定で、基礎学力の向上に努める。 ・個に応じた指導法の改善を行う。(個別指導の時間の確保、習熟度別学習の充実、3Tの導入)	・武雄市漢字検定、計算検定で、昨年度の平均を上回る。 ・全国、県学力状況調査で4教科県平均を目指す。	・検定に向けて学習する時間を確保する。 ・間違った問題については、再度、やり直しをさせ、全員が基礎的な内容を理解できるようにする。 ・やる気タイムを週3回帰りの会後に設け、全職員で指導にあたる。 ・少人数またはTT授業、ICTを活用した授業を全学年で取り組む。
教育活動	○ 校内研究の充実	・算数科において指導方法を工夫している。 ・伝える力を高める学び合い活動を授業の中に取り入れている。	・発問、指示、板書など、本校の実態を踏まえ西部教育事務所型スタイルを取り入れた授業を行う。 ・市販テストで学級平均8割を目指す。 ・スマイル学習の取り組みを行う。	・全学級に、「めあて」「まとめ」等の学習指示物をそろえる。 ・「比較・関連・帰着・総合」の言葉を使って学び合いを高める。 ・すくすくテストや東書プリントを活用する。 ・学習効果上がるように、保護者にスマイル学習の協力を求め、効果的に実施する。
学校運営	○ 望ましい学級集団の育成	・安心して学習できる学級づくりに取り組む。	・誰でも自分の考えが言えるような学級の雰囲気をつくる。 ・互いに意見を言い合えるような人間関係をつくる。	・QU調査、「せんせいあのね」等を通して学級集団の状況を把握する。 ・調査等の結果を分析し、学級経営に生かすための研修会を行うとともに、支援体制を整える。
特定課題	● 低学年を中心とした学習習慣の定着	・生活・学習習慣の定着化を目指す。	・「にっこよこのくらし」を利用し、家庭と連携して、生活・学習習慣の充実を図る。 ・「にっこよこのくらし」の全項目の80%が◎になることを目指す。 ・東書WEBプリントを利用し、児童の復習に役立て、児童の基礎基本の定着を図り、90点以上の習得を目指す。	・通信等を利用して、「にっこよこのくらし」の実態を家庭に知らせ、家庭教育の推進を図る。 ・複数の教職員で指導にあたり、形成的評価を行いながら、学習の習熟を図る。更に、一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導をし、学習・生活習慣の定着を図る。

**② 返事・あいさつ・礼儀正しい態度や言葉遣い**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○ 立腰三原則(挨拶・掃除・後始末)の徹底	・立腰の時間を使い、三原則を児童に知らせ、日々の教育活動の中で指導する。	・挨拶、返事、後始末の定着化80パーセントを目指す。(自己評価表の◎・○の児童が80%を超えるようにする。)	・全校朝会や集会、清掃は全校立腰で始める。 ・挨拶・返事、後始末については日々の教育活動の中で声かけするとともに毎月の「せんせいあのね」等アンケートを実施する。
教育活動	○ 自問清掃の推進	・掃除時間の環境を整える。	・無言掃除の定着度75パーセント以上を目指す。 ・掃除用具を整える。 ・常にトイレが清潔になるようにトイレ掃除に努める。	・立腰で掃除に取りかかり、静かな音楽を流すことで、落ち着いた雰囲気の中で掃除ができるようにする。 ・生活振り返り週間の時、無言掃除ができた児童を調べ、意識を高める。 ・環境委員会の掃除用具入れ調への徹底を図る。 ・環境委員会を中心に掃除強調週間を設ける。 ・トイレ掃除の手引き書を作り、掲示する。
教育活動	● 心の教育	・人権同和教育の充実を図る。 ・気になる子への個別支援を図る。 ・礼儀正しい態度や言葉遣いの徹底を図る。	・校内人権週間や人権集会の取り組みを通して自主的な態度を育てる。 ・気になる子や保護者の連絡、報告、相談などの支援体制を確立する。 ・相手を思いやる態度や言葉遣いの定着化80%を目指す。	・校内人権週間、人権集会を通して、全学級、授業実践に取り組み、児童が自主的に活動していこうとする態度を養う。 ・「せんせいあのね」を2ヶ月に1回記入させることで児童の悩みを調査し、児童理解に努める。 ・ケース会議や職員会議等で気になる児童の支援体制を整える。

**本年度の重点目標に含まれない共通評価項目**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○ 開かれた学校づくり	・学校教育目標周知率90パーセントを目指す。 ・定期的なホームページ更新等、学校教育活動の情報公開を推進する。	・「やる気いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 輝く山内西の子」の認知度を90%以上に高める。 ・週に1度のホームページや月に2度の学校だよりを活用し、様々な行事等を紹介し、保護者、地域住民の要望に応える。 ・保護者、地域の方に学校行事に参加しやすい環境を整備する。	・全校朝会、PTA総会などの時間を利用して、児童保護者に説明する。 ・月2回は、学校だよりを発行し、週1回ホームページ更新をする。 ・地域の会合には出席し、情報収集に努める。 ・年8回の土曜等を開校する。 ・地域人材を活用した学習活動の機会を設ける。
学校運営	○ 安全教育的徹底	・校内、校外事故の0運動の展開で事故予防に努める。 ・食育の授業を全学級で行い、食育の意義を浸透させる。	・食育の授業を全学級で行い、食育の意義を浸透させる。 ・完全自力登校率90%以上、休み時間に外遊びの達成率95%以上を目指す。 ・外遊びを積極的に行うために安全管理・安全指導の徹底を図り、昨年度より大きなけがの件数を削減する。	・給食試食会において、自校給食を味わってもらおうと共に、食育に関する授業や保護者向けの講話を行う。 ・食育の授業実践を次年度へ残していく。 ・期間を決めて完全に自力で登校した児童の数を調べる。 ・全校や各学級で外遊びを推進する呼びかけを定期的に行い、走ろう旬間、なわとび旬間の後に児童のアンケートを行う。 ・前年度発生した外傷の事故件数と内容を踏まえ、時期に応じて安全指導を学級で行う。
特定課題	○ 読書活動の推進	・読書活動の充実を図る。 ・家読書の習慣づけを推進する。	・毎月読書冊数低学年10冊、中学年8冊、高学年6冊を推進する。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーの家読書80パーセントを目指す。	・毎月の学級ごとの貸し出し冊数を知らせ、担任からも声をかけてもらう。 ・おすすめの本や新刊の紹介を行う。 ・週末に本借りと家読書を勧める放送をする。 ・図書館便りや、家庭にも家読書の実践を呼びかける。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーの家読書への取り組みを記録させ、意識を高める。
教育活動	● いじめ問題への対応	・いじめを許さない環境を構築する。	・いじめに関するアンケートを各学期に1回実施し、状況把握に努める。 ・道徳年間計画や教材等を整備し、担任が道徳指導をやりやすい環境を整備する。	・「校内いじめ防止対策委員会」と連携する。 ・「ふれあい道徳」を計画し全校参観授業を行い、便りに保護者の参加を呼びかける。 ・道徳年間計画や教材等を整備し、担任が道徳指導をやりやすい環境を整備する。 ・校内人権週間を設け、全クラスによる授業実践、人権集会、人権作文に取り組む。